

抗原定性検査（簡易検査キット）を活用した水際対策事業
 検査キットの追加購入について

危機管理室

1. 事業の概要

感染拡大地域から当地域へのウイルスの持ち込みを防ぐ水際対策として、8月4日から来年3月23日まで、圏域外との往來をされた方や体調に不安を感じている方に簡易検査キットを無料で配布し、迅速かつ多くの検査を行う感染防止対策を実施している。

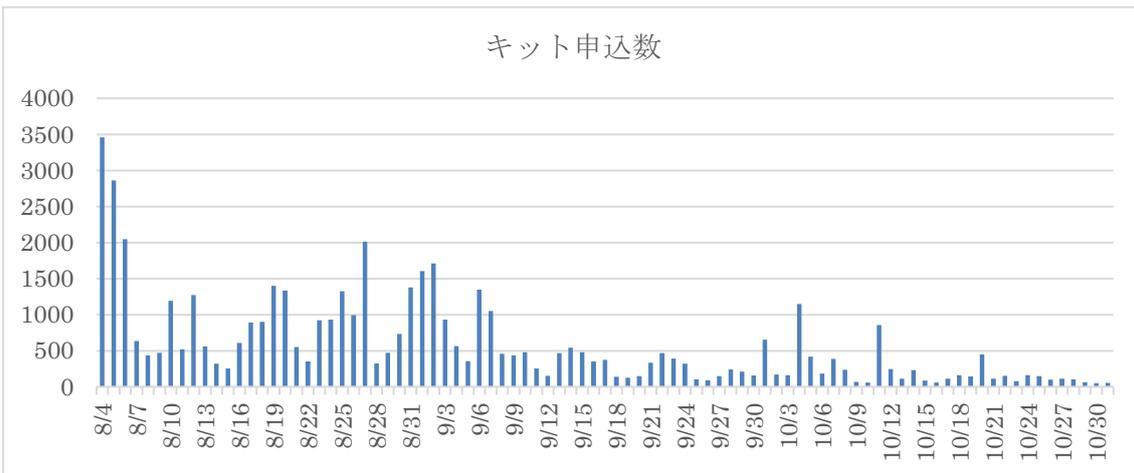
2. 申し込み状況

(1) 期間中の状況

市民の方の間に検査キットを利用し感染対策を行うことが浸透してきており、8月にお盆や夏休み期間で帰省される多くの方や、全国的な変異株のまん延による第5波の影響で当圏域も長野県の感染警戒レベルが5となったことで危機意識の高まった市民の方から、当初の想定を大きく上回る申し込みがあった。

9月中旬頃から全国的な感染拡大の収束に伴い、申し込み数も減少傾向を示した。

(2) 簡易検査キットの配布状況（10月31日時点）



期 間	個人		団体		合計	
	件数	個数	件数	個数	件数	個数
8/4～8/17	2,982	11,066	92	4,463	3,074	15,529
8/18～8/31	1,948	7,348	123	6,287	2,071	13,635
8月合計	4,930	18,414	215	10,750	5,145	29,164
9/1～9/14	1,459	5,513	82	4,844	1,541	10,357
9/15～9/30	767	2,853	34	1,233	801	4,086
9月合計	2,226	8,366	116	6,077	2,342	14,443
10/1～10/14	614	2,323	28	2,611	642	4,934
10/15～10/31	416	1,534	12	614	428	2,148
10月合計	1,030	3,857	40	3,225	1,070	7,082
申込数合計	8,186	30,637	371	20,052	8,557	50,689

3. 今後の配布見込み

(1) 今後の配布見込みにおける月ごとの考慮すべき事項

全国的な感染拡大の収束に伴い、申し込み数も減少しているが、これは裏を返せば感染が拡大してくれば申込数が増加することを示しており、12月から1月にかけての年末や年越し、帰省等による人流の増加や第6波によって検査キットの需要が高まることが予想される。

11月：気温の下降と乾燥等による第6波の到来陽性者数の緩やかな上昇

12月：本格的第6波による陽性者の増、年末による帰省等人の移動の増加

1月：正月の帰省等人の移動の増加、第6波による陽性者の増と緩やかな減少

2月：受験による人の移動の増

3月：年度末における人の移動の増

これ以外に、配布要望を増減させる要因としては、ワクチンの効果による陽性者の減及び抗体減少による増、3回目のワクチン接種開始、治療薬の使用承認、市販の検査キットの市民への浸透等が考えられる。

(2) 今後の配布申し込み予測

以上を考慮し、次のとおり月ごとに配布数を予測する。

月	個数	備 考
～10月	51,000 個	
11月	7,000 個	第6波の兆候
12月	17,000 個	年末の人流の増、第6波による陽性者の増
1月	17,000 個	第6波による陽性者の激増、年初めの人流の増
2月	7,000 個	第6波の緩やかな収束、受験による移動
3月	5,000 個	第6波の収束傾向、年度末の人の移動
合計	104,000 個	

4. 予算

現在、74,000 個分の予算を確保しているが、3月までには8月からの通算で約 104,000 個の申し込みがあると予測され、差分の約 30,000 個の増額を要求する。

・検査キット	19,500 千円	650 円/個×30,000 セット
・事務費	9,994 千円	(印刷費 995、通信運搬費 8,450、委託料 4,997)
合計	29,494 千円	

5. その他

未使用のキットが相当数あると思われることから、使用後のアンケートの確実な返送依頼と、必要分のみの申し込みの徹底を行う。

検査のタイミング誤りや偽陽性等による感染拡大の可能性を極力なくすよう、広報や説明書の見直しを行う。

企業に対し、検査キットを自費購入し対策を行うようにPRを行う。